RIPPLE SAILING CLUB
NO. 103

月刊 1991・4・15
RIPPLE

（発行） 500円
リプル・セイリングクラブ
〒238−03
神奈川県横須賀市長井2−11−1
TEL 0468−57−1711

ご めん 今月は ページ少ないです

リプルカップ開幕戦

去る4月14日今年度最初のリプルカップが行われた。
ここの1カ月間の週末は雨にたたられていたが、久しぶりにうす雲りではあるが気温が暖かくセイリング日和には持ってこいのコンディションに成った。

移動性高気圧の張り出しでいつものように風向N、5−7m／sと時々サーフィングを楽しめるレースには最高の条件の中で4レースを行った。

参加選手は7名とちょっと少な目のレースで有ったが、ヨットに乗って3日目で沈ばかりしていた篠田から常にトップを引いていた団体選手の長谷川、レーザー全日本では上位に顔を出す相場、フルチューンをしたばかりの藤村、軽量級で頑張った小池、”この船やだやだ金貯めてホッパー買うんだ”と言っているコンビの山崎、長谷川（妻）とバラエティーに富んだ選手の面々であった。

そして、思う存分楽しんだレースの後は反省会を兼ねコロビーパーティーで盛り上がったのである。

リプルカップ成績表

順位	Name	Type	1st	2nd	3rd	4th	P
1	長谷川	ホッパー	1	2	1	1	4
2	相場	レーザー	5	1	2	2	10
3	藤村	ホッパー	2	3	3	3	11
4	山崎、長谷	コンビ	3	4	4	4	15
5	小池	ホッパー	4	5	5	5	19
6	篠田	ホッパー	6	6	6	6	24

それに付けても今回のレースで滅多に見れないハプニングが起きました。下マークで沈起こしをした小池艇が風下から起こしたため再度沈をし、マストの先端が後を追っていた藤村艇のバウ方向からデッキにぐっさりと言う場面が有り、しばらく両者パニクっておりました。見ていた”なんかは”あーーーっ！”と声を出したぐらいインパクトが有る光景でした。（怪我が無くて良かった、良かったです）
来月は5月12日（日）です。お待ちしております。

＊コミッティーをお手伝いしてくれた宇藤さん、阪上さん、土川さんご苦労さまでした。

スポット連絡会の年度計画

今年度のセーリングスポット連絡会の年度計画が決まっておりますのでお知らせ致します。

5月26日（日）・・・・・ビーチパーティー （逗子）
一般の人を対照にバーベキューをしながらディンギー、クルーザー、マリンジェットを経験してもらおうと言う企画。

6月16日（日）・・・・・ヨット駅伝 （長浜or野比）
今年の駅伝は浜に平行に走り、ギャラリーと一体になった大会を予定しております。

10月20日（日）・・・・・湘南カップ
クラス別でなく総合成績を予定しております。

潮っけたっぷりビデオ紹介

不定期便海洋文庫と並んで今月よりやはり不定期便ではあるが、独断と偏見で潮っけたっぷりなビデオを紹介していこうと思います。余りTVを見ない私としては蓄積が少ないのですが、記憶に残っているものより紹介していきますが、皆さんもこれはと思われるソフトをご紹介下さい。この場を借りて紹介して行こうと思います。
でもって、まずは邦画からひとつ。

『太平洋一人ぼっち』
昭和37年堀江さんが太平洋単独横断した時の話で、船大工にマーメイド号を製作依頼し、真夜中西宮港を密出国し数々困難を乗り越え164日目にゴールデンブリッジに到着する迄を、今は亡き裕次郎が演じている。
食料の事、嵐との格闘、孤独との戦い、自分とまたリプル号とオーバーラップさせて視ると心に残る作品である。
裕次郎と言えば”狂った果実”と言う作品ではディンギーの露出があります。

『太陽がいっぱい』
アランドロン演じるぷーたろうのトムがアメリカ人の高慢のぼんぼんフィリップ所有のヨットの上で、ぼんぼんを殺害し完全犯罪を狙ったフランス映画。
Jボートの小さくしたような50Ftも有ろうかと言うスループ艇がいたる所で出てきて、海好きの我々を楽しませてくれるのである。
また、ぼんぼんの彼女マルジェに遠い昔S氏は恋をしたものである。
この作品は最後の1分で思わぬ展開に成るので有るがそれは視てからのお楽しみです。

『バウンティン』
1787年キャプテンクックが没して間もない頃、イギリス海軍の特命を受け本国イギリスより遥か彼方タヒチ迄航海し、奴隷の食料としてパンの木の苗木を積んで次の目的地まで行く間に、厳格なブライ船長に嫌気をさした、副船長の（帆船であるが軍艦だから艦長、副艦長かな）クリスチャンが反乱をお越し艇を奪ってしまい、ブライ船長は何名かの船長派の乗組員と共に救命ボートに乗せられ、太平洋のどまん中に放り出されてしまい、困難を乗り越えぼろぼろに成りながら島にたどり着くというお話である。
このビデオで印象に残っているのは、奪われた我が艇がどんどん小さくなって行く中、放り出された仲間に向かってブライ船長はこう言うのである。
”残っている食料は2週間分であるが、近くの島まで2カ月は掛かる、我々に与えられた条件はこれだけである”と。
最近のすぐ”だって”、”でも”、”しかし”とか連発し現実逃避する奴らに言ってやりたい台詞である。

『Uボート』（ダスボート）
ヨットは出てこないが、潮っけたっぷりなサブマリン版の頂点に立つもので私は5星をあげたいです。
第2次世界対戦末期の頃、連合軍の補給路を絶つためドイツではUボートと言う潜水艦を建造し、その1つの潜水艦に焦点を定め、出航し幾多の生死をさまよいながら母港に凱旋する迄を描いた物語である。
映し出される映像は、どの瞬間をとっても手抜きをしてなく、ヨットは出てこなくても海の好きな人には応えられない出来ばえです。
”レッドオクトーバー・・”、”シークレットサブマリン”なんかはスタンスが違うから比較できないが、への様な作品に見えてきます。
サブマリン版としてその他に”マーフィーの戦い”、”眼下の敵”何てーのも有りますが、後ご期待。